

技術・家庭 3

(3) 実践例 3

ア 選択教科の履修について

本校の選択教科「技術・家庭」は従来の技術系列，家庭系列という形ではなく，生徒の特性に応じられるようにコース制を導入している。第2学年では木材加工コースと生活コース，第3学年では電気コースと家庭コースである。オリエンテーション時にも生徒自身の興味・関心に応じて選択するように説明した。その結果は表1に示す通りである。

第2学年の生活コースに男子が8人選択しており，これは第1学年での必修教科である木材加工領域と家庭生活領域との関連から選択してきたことと思われる。

ここでは，生徒一人一人が生活の中から課題を見つけ自分の力でその課題を解決し，それぞれの生徒が成就感を味わうことができれば，意欲的な学習活動が展開できるのではないかと考え，第3学年での〔家庭コース〕の学習を中心に授業実践の一部をまとめてみた。

〔生徒の選択〕

- 第2学年で「音,美,保体,技・家」から1教科選択 週1時間
- 第3学年で「音,美,保体,技・家」から1教科選択 週2時間（連続）
「国,社,数,理」から1教科選択 週1時間

イ 第3学年 選択「技術・家庭」家庭コース

(ア) 生徒の実態

女子26人で構成されている。

「家庭科が好き」，「物を作ることが好き」という理由で大半の生徒が選択してきた。必修教科ではできないことが学習できたり，将来の生き方を考えたときに身に付けておきたいことがあるという本当に家庭科に対して関心の高い生徒たちであり，意欲と熱意が感じられる。

また，自分が身に付けるものを製作できることで，生徒自身，完成への期待度は大きいものがある。しかし，裁縫に関する生活経験が乏しく，技能も全員が確実に習得しているわけではない。

表1 履修状況 (人)

	第2学年		第3学年	
	木工コース	生活コース	電気コース	家庭コース
男子	31	8	34	26
女子	2	8	2	0

(イ) 学習計画の作成と工夫

a 学習計画の立て方

- (a) オリエンテーション時に説明し大まかな内容と計画の提示
- (b) 生徒の希望調査，意見交換
- (c) 活動計画の作成→修正→決定

前年度は教師側の立てた計画に生徒の希望を取り入れた計画だったため，自分たちで課題をもち，意欲的な取り組みが見られなかったという反省にたち，前年度の計画は参考にするだけにとどめた。

今年度の学習内容については，生徒中心に話し合いを進め，生徒自身が自ら課題をもって取り組めるように希望調査や学習内容の検討を十分に行い，何度も修正しながら全員で年間の学習計画を作り上げていった。

従来の方とはまったく逆の方法で計画を立てたが，自分たちで作ったという実感があリ意欲的に取り組むことができた。

b 学習計画の工夫

「食物」は「調理」と考え，「おいしい。(おいしかった)」という満足感で終わってしまうことのないように，ここでは必修領域での学習を発展させ，自分たちの住んでいる地域の特産物や料理に目を向けさせることを考えた。特産物の歴史をたどり，手法を学びながら自分たちの手で特産物を作り，さらに多様な献立を立てて調理できるよう学習過程に工夫を設けた。

被服製作においては，家庭生活の代替として被服領域を履修させたが，技術が未熟で思い通りの作品にならなかったようであった。そこで個に応じた作品を製作する中で基礎的な知識や技術を確実に習得させ，それらを生活の中で応用したり発展させたりしていくことができるように，課題解決型学習に重点を絞ってみた。

資料1 生徒作成の年間活動計画

月	テーマ	学習課題	学習内容・活動	行事
4	◎野菜を美味しく調理への挑戦	・食べられるものを集めて、おいしく調理し、お友達に紹介しよう。	・調査・研究 ・調理の計画を立てる。	入学式
5			・野菜を美味しく作る。 (学校周辺の野菜農園 社会福祉センター) ・学習→発表→鑑賞	スノー・リゾート 修学旅行 中間テスト
6	◎電卓の組立？の自然美を作ろう。	・電卓の構造や、水戸周辺の自然美を自分たちで探検し、調べよう。	組立 電卓の作り 組立 自然美の作り	期末テスト
7			組立 自然美の作り 組立 自然美の作り	期末テスト
8			組立 自然美の作り 組立 自然美の作り	修学式 体育祭
9			組立 自然美の作り 組立 自然美の作り	中間テスト
10	◎自分たちが活用できるもの製作～Challenge!! Hand-made～	・最終的な作品に分れるものを考え、おもしろいものを作ろう。 【自分たちのもの】	・作るものを決める ・作り方を決める ・計画を立てる ・各自製作に入る	中間テスト
11	<ひたすら>	・自分の作品を上手に仕上げよう。一生懸命に取り組む。	・製作に励む	学校体育研究 発表大会 期末テスト マラソン大会
12	<もくもく>	・自分の作品を上手に仕上げよう。一生懸命に取り組む。		クリスマス
1	<いよいよ>	・最終的な作品を仕上げよう。一生懸命に取り組む。		提出入試 学年末テスト
2	◎発表会	・Hand-madeの作品を多くの人に紹介しよう。	・発表で自分たちの作品をアピールしよう。	
3	感謝祭 ～Thank you～	・きれいに仕上げよう。	・感謝状の作成 ・調理器具の洗浄 ・調理器具の消毒 ・ミシンの手入れ	卒業式

(ウ) 生徒の「被服製作」題材決定まで

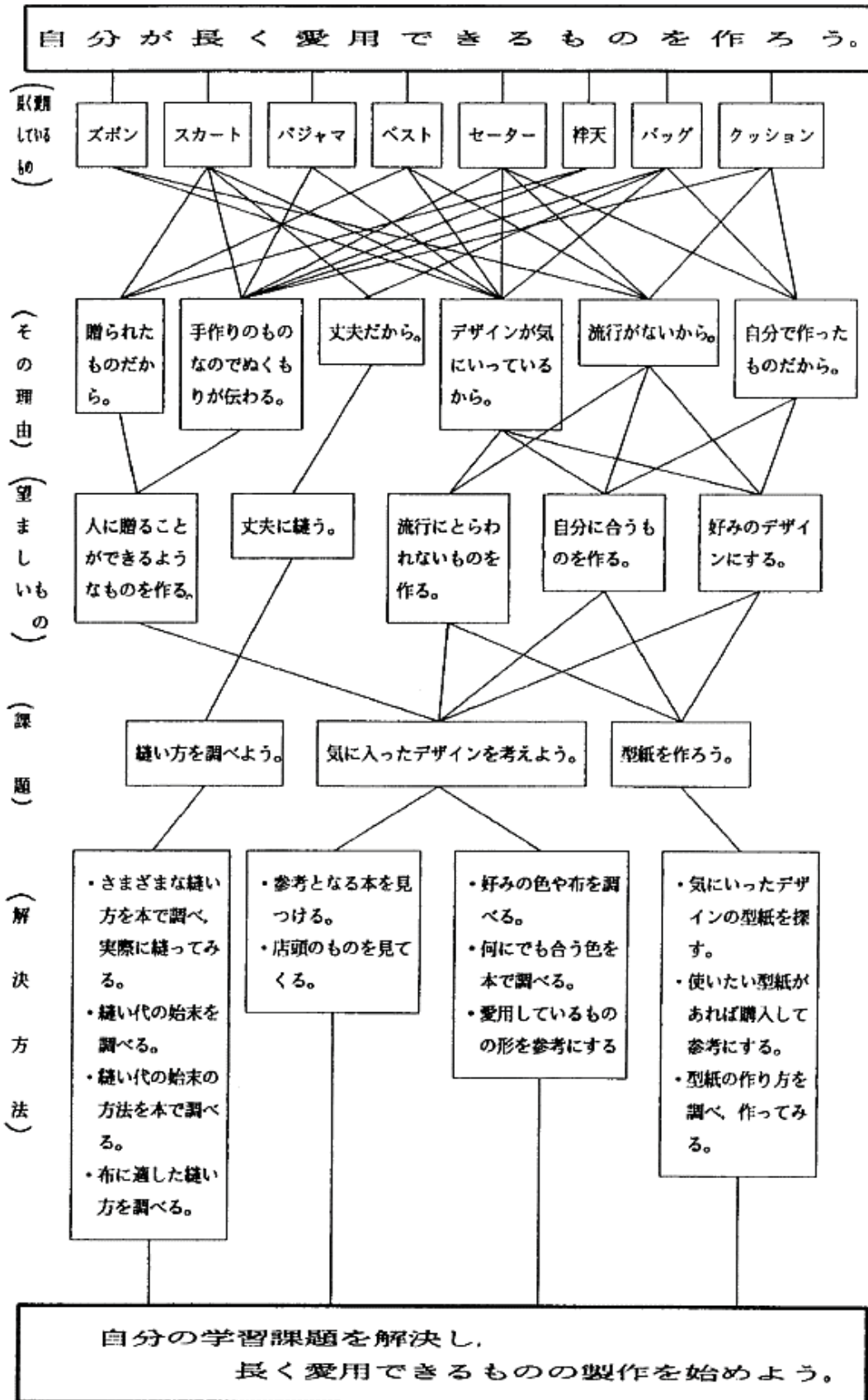
家庭生活を営む上で被服にかかわる課題は実に多い。被服はできれば素材など幅広く関心をもたせながら製作させたいと思うが時間不足である。そこで自ら学ぶ姿勢を確立させるために自分の衣生活を振り返り見つめさせた。せっかく時間をかけて作るのだから、作ったものは長く使っていくことができるようなものをテーマとして掲げ、そこから一人一人がテーマに近づく題材を選べばよいのではないか。」ということになった。そこで「自分が長く愛用できるものを作ろう。」というテーマに決定した。これは製作だけではなく、実験や調査でもよいことを確認した。

「自分が長く愛用できるもの」とは、「自分が気に入っているもの」ではないかと考えた。では、なぜ気に入っているのか、また、なぜ愛用しているのか自分の衣生活を見つめて考えさせた。まず、自分がこれまで長く愛用しているものは何であるかの実態調査を行った。生徒は、自分だけでなく家族や友達先生にも尋ねた。そして長く愛用している理由はどんなところにあるのか具体的に調べ、参考意見としてまとめることができた。

実態調査の結果をもとに、グループごとに意見交換を行った。自分が作ったものを長く使っていく（愛用する）ためには「気に入ったものでなければ使わないであろう」ということに絞られた。そして、「気に入ったものを作るにはどうしたらよいのだろう」、「何を考えなければならぬのだろう」と次から次へ、自分たちがお互いに疑問を投げ掛けていった。次第にどんなことを調べていけば「気に入ったもの」を作ることができ、それを長く愛用していくことができるのか、意見交換を通して焦点が絞られ、自分たちで課題を見つけることができたのである。なお、課題は「型紙を作ろう」、「自分に似合うものを探そう」、「縫い方を調べよう」であった。話し合いをしていく過程で、全員が何らかの製作に取り組みたいということから、生徒一人一人の進度に大きな差が出やすい学習であることを考え、全員の完成を目指してグループ学習を取り入れたほうがよいということになった。課題の追究や解決にあたっては、題材ごとにグループを編成し、そのグループごとにさらに計画を立てて取り組んでいくことになった。

このような話し合いをさせることで製作するものや課題が明確にされ、自分の願いを達成する意欲付けとなっていった。

資料 2 学習課題とその解決方法



技術・家庭 3

ウ 研究の成果と今後の課題

問題意識は多くの場合、疑問という形で私たちの前に呈示される。そうした生徒の様々な疑問を授業の中に位置付け、意識化を図らせるべく課題として着目させたわけである。そうして、学習課題が生徒によって見いだされコースが設定されていった。自分の立てた課題の解決に、生徒は自ずと意欲的になっていった。

課題の解決が教師の意図するねらいと違った場合でも、生徒の設定した課題を大切に、自分の課題で追究させ、教師は少々高度なものでも援助していった。生徒の何気ない思いつきやつぶやき、感想、素朴な疑問などすべてを取り上げ、教師が資料や標本を用意する等援助して、解決の方向へ導いていった。解決の計画や方法を生徒の発想を生かして決定させたことや解決や追及のための時間を多く取ったこと、成果を発表させる場を設定したことなどにより、生徒一人一人が意欲的に取り組むことができた。

今後は、被服領域のみでなく、他領域にも幅を広げ、生徒の願いを大切に、課題解決を図れるような内容を工夫したい。

5 おわりに

「生徒一人一人が意欲的に活動する選択教科「技術・家庭」の指導の在り方」という主題のもとに授業実践を進めてきたが、生徒自身が課題意識をもち、質問したり話し合ったりして学習を進めることが多くなった。生徒のよさを生かし、工夫したり創造したりできるコースが決定され、課題が明確化された時、生徒の主体性や創造性が伸び、意欲が高まっていった。技術・家庭科における学び方を学ぶとは設定したテーマの中に生徒自身が日頃の生活の中から課題を見出し、それを解決するため情報や資料を活用しながら、自らの力で追究し、解決していく一連の過程そのものを学び方として身に付けていくことである。自分が立てた課題に取り組み、それを解決した時に味わう「分かった」、「できた。」という感動が大きければ大きいほど意欲は高まり、自ら進んで学び続ける態度が養われるのである。

生徒たちに意欲をもたせ、生活に生きて働く力や豊かに主体的に生きるために必要な力を身に付けさせるために、課題を立て、解決できる力を付けるための指導・援助の在り方や、生徒のよさをとらえる評価などを、今後も研究していきたい。